

会議議事録

第 5 回 インフラ自分ごと検討会

日付: 2025 年 7 月 25 日 (金)
時刻: 15:00-17:00
議事録作成者 浅野和香奈

出席者

佐々木、宮城、加藤、岩城、二瓶、中島、浅野、小池、恩田、力石、皆川、平野、松田

話題提供者

広島大学 大学院先進理工学系科学研究科 力石真さん

神戸大学 大学院工学研究科市民工学専攻 小池淳司さん

議事録

佐々木座長からのご挨拶

●日経コンストラクションに水道料金値上げに対するアンケートの結果、インフラ整備に対して今後どのぐらいお金を払うべきかというアンケートが出ていた ([リンク](#))。八潮の事故以降、問題意識が高まったが、**値上げは反対という意見も多い**。

力石真さんからの話題提供：「都市・交通に係るインフラ自分ごと問題」

●**自分ごと化しすぎる地域**：日本の地方では、**自分たちで共助バスが運行**されたが維持困難となり途中であきらめ、路線バスも共助バスがあるからと途中で止まることで**状況が悪化**する恐れがある。**自分ごと化しすぎも問題**。

●**ナラティブ・ビジョン・規範・価値観の変遷**：ナラティブや価値観は、技術や制度とともに変化し、**必ずしも社会善に沿わない**こともある。その変遷を理解し、**自分たちの選択だと認識**させることが重要。公共交通への集中投資がナラティブ、ビジョン、規範、価値観の転換をもたらす場合もあるが、広島路面電車は理屈ではなく、**復興のシンボルとして意思決定**がなされた。

●**「交流」のインフラストラクチャリング**：「交流」を促進するインフラ整備は、都市交通の本質。そのために、**都市のモデルに交流の要素を取り入れ**、公共交通の導入や整備が人と人の交流に**どう影響するかを可視化**することが重要。

●**組織化された無責任**：過疎地域の衰退も同様にだれの責任かを問うこと自体が不可能。誰が悪いかという議論よりは、**社会制度・構造の変更を考えた方が**良い。組織化された無責任を回避するには、**責任と権限を持つこと**。

質疑応答

●交通でも**限りある時間という資源を目に見える工夫**ができれば自分ごと化できるのではないか。行動調査の仕事（生産活動）と仕事以外（消費）という分け方に疑問がある。**消費と生産を簡単に 2 分割せずに立体的に見れたら**良い。

●公共交通の**決済システムは民間のシステムに依存**しすぎな印象がある。目指す社会像に合わせて、それに**到達するための手法として適切か**を議論する必要がある。料金設定等、繊細なカスタマイズを行うなら、**コミュニケーションの強化**が不可欠。

小池淳司さん：「インフラから見る社会」

●**多様性の養成と統合性の養成**：人類は自由と権利を模索し、**多様性と統合性を重視しグローバル化**を進めてきた。しかし、9.11 以降、**国家の分断**が生じている。もう一度統合を目指しているのが**レイシズム**。日本は戦後中央集権で進めてきたが、地方分権により地域間で競争ができ、**都市が有利になって地方が疲弊**していくという歴史をたどっている。その解決方法として、**もう一度中央集権に戻す**というのも 1 つ。**枠組みの在り方を見直す**時期に来ている。

●**費用便益分析を考え直す**：物を買う動機は「支払意思額」に基づくが、**インフラの費用便益は全員が費用負担より支払意思額が上回るわけではない**。しかし、**社会的な統合性があればこれを許容**でき、その枠組みがインフラの建設に影響する。経済学は社会の構成員の最下層の人と入れ替わっても許容できる社会を想定しているが、**経済合理性が進むとその前提が崩れ始める**。

●**精神的共同体と制度的共同体の分離**：インフラ政策による社会の統合は難しいと感じている。歴史的に見ても、**国家の分裂や対立は精神的共同体と制度的共同体の乖離**から生じてきた。日本も地域レベルでの精神的なつながりは

存在するが、**近代化や個人主義の進展によって崩壊しつつあり**、再構築は困難だが、今やらないと三島由紀夫が言ったように日本というものが失われてしまう。

●**地方と都市の社会的分断**：インフラは税金を使いある社会集団に対して築かれるものであり、個人が直接受益しないことから、**統合性や自分事といった概念が不可欠**。柳宗悦の一説にあるような感覚を大事にするとするならば、**日本各地に人が住み続けられるような環境を作らない**といけない。そこにインフラ、土木が果たす役割というのは非常に大きい。

質疑応答～全体議論

●インフラの価値や役割を自分事として感じ取ってもらうには、歴史や利便性**ストーリーや物語にして伝える**ことが重要ではないか。**直接自分に関わることや過去の支えと繋がる物語**を理解することでインフラを自分事と感じられるようになる。

●東日本大震災で多くの義援金が集まったのは**同じ国民が生命や財産を失ったことに対して自分事**に考えたから。今ヨーロッパではノンマネタリータックスという**ボランティアを政府が制度化**し、共同体を守ろうという運動がある。日本では**精神的共同体と制度的共同体の乖離に違和感や反発**がある。**丁寧に説明する作業**が土木学会として必要かもしれない。

●人間は多様な問題を全て理解・共感することは難しく、面倒や難しさを避けて**目の前のことに没頭しがちだが、それが普通**の感覚。環境問題であることは理解しつつも、個人ではなく、**専門家や政府に任せる傾向**がある。自分事、私たちごとの意味や範囲を**丁寧に伝える**必要があるのかもしれない。

●インフラの影響する範囲と、受益と負担の構造がきれいにそろっていれば、ハレーションは起きないが、残念ながら**国の権限が強すぎ**てある地方にしか影響しない部分も国がやっている。それを東京圏の税金でやっていたらハレーションが起きるのは当たり前。→それを突き詰めて、受益と負担のバランスを取ると**民営化に近い議論**になって、**インフラの意味をなくしてしまう**ことに繋がる。受益の負担の原則とはかけ離れる所にこそ、インフラに意味があるのではないか。

●どういう単位が重要かは様々あるが、**世界が近代化していく中で国という範囲は維持**されてきており、生産の技術、効率性を考慮して、**今のところ国という範囲が非常にうまくいっている**というのが歴史的感覚。

●国家がある田舎の地先の道路にまで口も金も出す仕組みが本当に正しいのか。制度的に重要な単位であることは否定しないが、インフラを扱う際に**国家最優先の今の仕組み**が良いとは思えない。

●お金に換算できる効果や、豊かになったと感じられる範囲は限られているが、**間接的な便益も色んな所に広がっている**。**インフラは再配分する手段**であり、その役割や価値を社会全体に伝える必要があるが、日本人の**自分事の範囲がどんどん内向き**になっていることが残念に思う。

●他人事と思えることは楽で幸せな気もしており、**他人事であることの幸せ**も大事にできないか。

●任せる社会になってうまくいかない部分が出てきた。任せられた側も**その範囲に閉じず、広く責任や関心を持つ**ことが重要。

今後の検討会に関して

●流域治水の自分事化のシナリオは、地域意識と小さな行動を促すことの効果を示しており、**他の事例も調査**しながら具体的な進め方を検討する必要がある。**土木学会として何ができるかを整理し、具体的な方策を考える**ことが重要になる。

●最初に立ち戻ると土木学会の委員会で**計画側と構造側が混じった議論**をする場がなく、学会としてインフラの問題を自分事化できるかを個々に考えつつ、**横に繋が**りましょうということを志してこの委員会が始まったはず。ここで得られた知見をもう少し**市民へ幅を持たせて議論し伝えられるような活動**を目指すとも良いのでは。

●**お盆休み前の 8 月 8 日**に、これまでの話題やディスカッションの成果を整理し、**今後のロードマップを作成**する。その中で、社会水門学会のポスター発表を参考に、**マッピング手法**を用いたり、**キーワードを空間へ落とし込んだデッサン**をする方向も良いのではないか。何度も同時に集まって議論するのは難しいため、**ミロ等のボードを活用**する方法もある。**ステークホルダーや働きかけ先の整理・フレーム作成**を行い、それを基にやり取りを進める方法を検討しても良いのでは。

●環境社会学でコンクリートと私というタイトルで、作文を出した方法があった。インフラの自分事とはどういうことかという**作文を集約する方法**はどうか。19 人真面目に考えた作文であれば相当良いものができてるのではないか。

●作文はお題が難しいが、8 日に検討したい。市民にとって自分事にしてもらうために、**会員のあなたは何をしますか**というところを考えたい。**土木学会の会員という範囲で線引き**をしても良いのかもしれない。

次回のスケジュール確認

第 6 回：8 月 8 日（金）10 時～12 時。※一部分の参加でも良い。